

目標（４）

学校・家庭・地域が連携を深め、
12年間の学びや育ちをつなげます



▲めざす子ども像 カレンダー

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」と、園・学校・家庭・地域といった「ヨコのつながり」を密にし、次世代を担う子どもをみんなで力を合わせて育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 高浜市内の幼・保、小、中すべての教職員が、それぞれの教育観や指導法の共通点・相違点を十分理解した魅力ある授業を実施したり、子どもの様子について情報の交換を密にしたりすることで、子どもが元気に園や学校へ通っています。 ◇ 子どもが学校や家庭だけでなく、地域の様々な人とかかわりながら学んでいます。 ◇ 発達段階に応じた学習習慣や生活習慣を身につけた子どもが増えています。

II. 目標達成のための主な取り組み【DO】

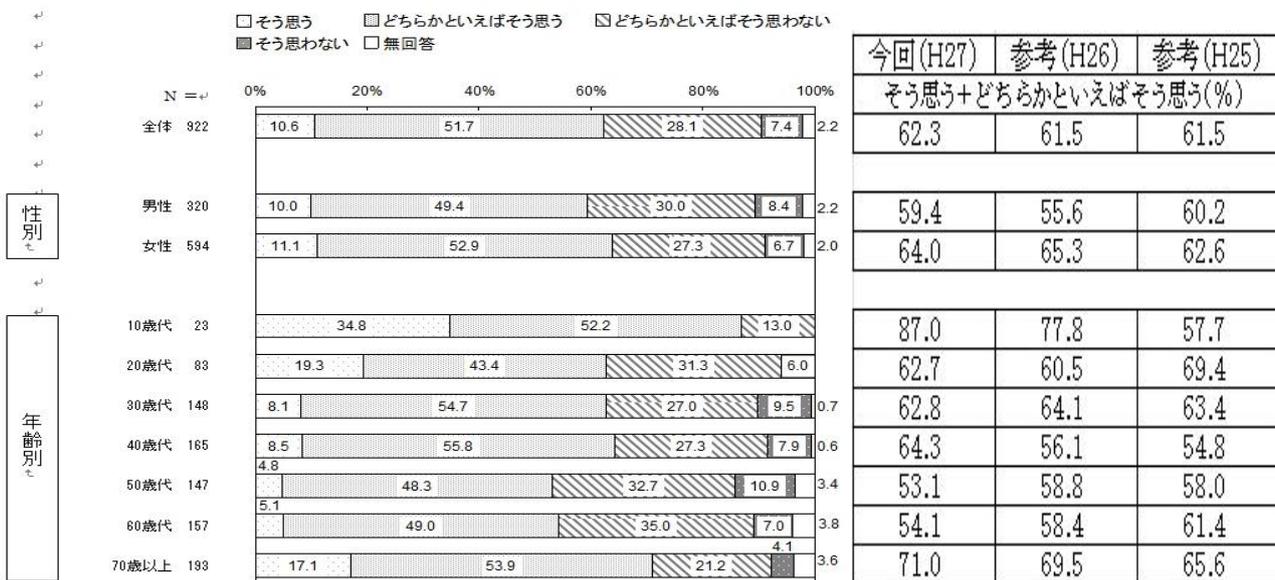
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。	①異校種参観を年長、小1、小6、中1担当教諭で行った。	H27.5～
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、異校種間連携推進委員会にて分析結果を報告した。	H27.6 調査 H27.8 報告
	③異校種連携事業・異校種参観の成果と課題をまとめ、周知した。	H28.1
(2) 各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源（ひと・もの・こと*）を活かした「高浜カリキュラム（生活・総合的な学習の時間）」を市内全園・全校で実施します。	①高浜カリキュラムを充実させるために、推進委員会を3回開催し、目標や入力するモデルプランを話し合った。	H27.5・8
	②高浜カリキュラムの目標や実践後の子どもの姿を、発達段階を踏まえて確認した。	H27.8
	③各園・各校における高浜カリキュラムの実践状況を確認し、ワークシートや単元構想図などを所定の場所に整理して保存した。	H27.5・8
(3) 高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。	①「目指す子ども像」周知のためにカレンダーを配布した。また、PTA 総会などを活用して、保護者へ説明した。	H27.5
	②「目指す子ども像」周知のために実践した具体的な取り組みを推進委員会で発表した。	H27.8
	③広報に毎月の重点目標を紹介した。	H27.7～
参画・協働・情報共有の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ☆参観するポイントや各校に学んだ点を紹介するため「参観シート」の中から、ピックアップして委員会で紹介し、視点の拡大に努めた。 ☆各園・各校で実態に合わせてプランを組み立て、地域の方に講師を依頼したり、学びの場を提供してもらったりした。また、地域の方と触れ合うなかで、思いを共有したり、子どもたちの成長を親近感をもって見守ってもらったりした。 ☆子どもたちの様子が分かる写真や、子どもの作成したイラストや、行事などが掲載された楽しくわかりやすいカレンダーを保護者だけでなく、まち協などにも配布した。 	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

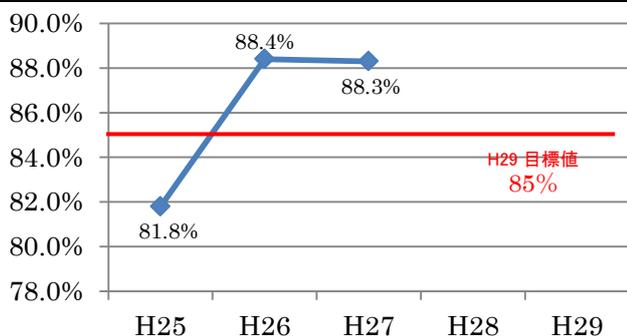
【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間（4歳～15歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
61.5%	61.5%	62.3%			◎

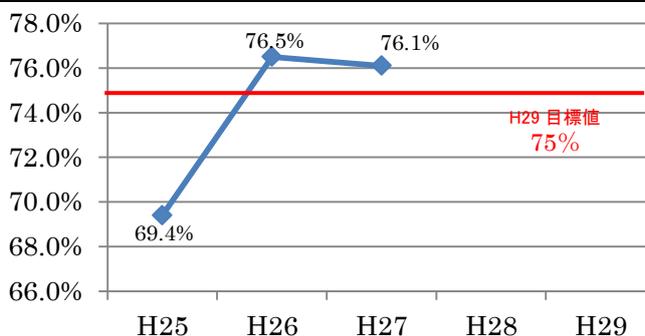


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 学校が好きと感じている子どもの割合



2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 市民意識調査結果は、前年比0.8ポイントの微増となった。幼保小中の異校種連携事業を各園・各校で工夫して行い続けることで、自己有用感を高めることにつながった。
- 指標1)「学校が好きと感じている子どもの割合」は、前年に大幅な伸びとなり目標値を超えたが、今回は前年結果とほぼ横ばいであった。異校種間連携事業で、子どもたちが今の学校生活にフィットしているため、学校生活を安心して過ごすことができ、学校が好きだという気持ちにつながったが、当事業のさらなる充実が求められる。
- 指標2)「学習に積極的に取り組む子どもの割合」についても、前年に大幅な伸びとなり目標値を超えたが、今回は前年結果とほぼ横ばいであった。高浜カリキュラムの生活科・総合的な学習の時間で単元を通して、子どもたちが主体的に学びを深め、学習するおもしろさを実感できたと考える。また、学習を進めるために地域の方の協力を得て、共に授業をつくることができた。今後も、地域の方と連携を密に、子どもの学びの機会を創出し、学びや育ちを育むための体制構築に努めていきたい。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>（１）異校種間連携事業（子ども中心の活動）の整理と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 異校種間連携事業をより充実したものとするため、課題等を明らかにするとともに、子どもたちに向けて広く意義の周知を行うことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内各校が同一歩調で推進していけるようにするため、各校の進捗状況を管理しながら推進上の問題点を明確にする。 	H29.3
	<ul style="list-style-type: none"> 異校種連携事業の意義（以下①～④）を、改めて周知し、事業の価値を高める工夫や整理を進める。 ① 入学後の見通しをもち、憧れや目標を抱く。 ② 自分の成長に気づき、自信をもって目標に挑戦したり、これまでの支えに感謝したりする。 ③ 伝えることを考えたり、表現したりする力を養う。 ④ 互いの思いを受けとめ、より良い方向に進む力を養う。 	H29.3
<p>（２）異校種参観（教師中心の活動）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 異校種参観の意義が職員全体に十分に浸透していない。 異校種参観で得られた課題や効果等を広く職員に周知することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 参観の意義を周知すると共に、参観の機会を増やすよう、参観対象教職員や参観対象授業を見直す。 	H28.8
	<ul style="list-style-type: none"> 異校種参観後の振り返りで書く参観シートに書かれた異校種の教育観や指導技術を周知するなどして活用する。 	H29.3
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの見立てや授業づくりの新たな視点を得るため幼→中、中→幼の参観を積極的に進める。また、5歳児、小1、中1だけの参観にとどめず、参観対象学年を自由に選べるようにする。 	H28.8
	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児、小1、中1の担任だけでなく、参観対象を過去3年間で行っていない者を原則とし、偏らないようにする。 	H28.8
<p>（３）高浜カリキュラムの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間、生活科のモデルプランの入力が28年度で一区切りとなり、今後の活用方法を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 年長の食育、小2の生活科、小6の防災、中3のキャリア教育のモデルプランを加えて、12年間の学びをつなげる高浜カリキュラムを完成する。 	H29.3
	<ul style="list-style-type: none"> これまで集約したモデルプランや資料について実践を行いながら、修正を加えていく。推進にあたっては、他部局で把握している地域の方への声掛けを各校に勧める。 	H29.3
	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、子どもを生き生きと活動させる魅力ある単元構想を集約し、教員の授業力の向上を図り、子どもの学力定着や生きる力の育成につなげる。 	H29.3
<p>参画・協働・情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆異校種間連携における啓発用チラシは、写真を多く掲載し、事業内容を分かりやすく伝えていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ☆高浜カリキュラムの推進にあたっては、地域の方に講師になっていただくことで、相互理解をはかっていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ☆「目指す子ども像」のカレンダー作成にあたっては、写真を多く掲載し、目指す子ども像を分かりやすく伝えていく。 	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

- 先生方のご尽力のおかげで、高い数値を維持しており良い傾向にある。異校種事業の効果が出ていると実感する。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

—

その他、目標の達成に向けて

- 高校でのカリキュラムの中に「コミュニケーション能力の育成」を加えてはどうか。
- 学校側で地域と接触しているのは4役が中心。しかし、将来を見据えるとなると、若い先生ももっと積極的に地域と関わるように学校として考えてほしい。そういった意識を持つことが肝心。ただ地域に出るだけでなく、責任を持って地域と接しないと、次につながらない。
- 高浜カリキュラム推進にあたり、協力していただける地域の方を発掘する際には、例えば「タカハマ！まるごと宝箱事業」で活躍されている方に声を掛けるなど、部局を越えた横のつながりを意識することが大切である。